夫木和歌抄

壱冊

八利久
1765
30

1765
30

597

史本和歌抄巻第廿

雜十二

改頁

一

國　禁中　仙家　都　故郷

故宮　閑居　窩　宅　廬

屋　屋形　隣　心家　田家

598

宮内省圖書寮

國

（三行分ほど）

老の年前齊合　後京極摂政

玉神祇

祈らんいのちのすゑをかぎれば八日のうちにかぎりあるかな

天照

法皇元年百首歌　後九条内大臣

ひとつのあつまりにうゑをかざらん

郷

郡々の家

言の葉

あらかの人のかたらひにかきりなきやまとことのは

承元三年歌合　藤内大臣

源

海のほとりもなきかぎりあるこのみちにみちあるこのみちを

治

白河殿

伊豆國熊坂村　宮内省圖書寮藏書

599

おもふこと
あまつそらうんてんてらしてもののそこにうつるゆめそうつゝ
天津　日　静
同　同
おもひこと
さゝやかぬ　ぬ　に　ゆめにあらめ　同　れてあらつゝ　風　ゆめ　法　ゆめ
光俊朝臣

原
いつゝこ　子　ゝ　ゝ　ゝ

千五百貫余合　　大和国高取郡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

601

五 あめつちを、ようてある所、いしそうあまの所、ころとその、
なるりこの、

五十三 あしつくり、月 乃ゝ乃所、たれすと、あまそなる、ゆをよりの、
ちよ万ゝこの、かゝそうり、

月

五 あ月さるひのいあれもいりるゆゝこの乃ゝ乃ゝ乃ゝ

新京乃中　他ゆゑ人

一須弥の四乃巻月ゆゑ乃巻へさらん

左馬頭

祇園と宮寺乃さゝめ　中務乃親と東乃千首奇合　円

ゆゑて風おさまれる乃ゆゑ

はゝそて風おさまれる乃ゆゑ

はゝそ乃紅葉　左浦安国へ行幸諸そる

乃付法り　他よりたにそ紅葉れ

波乃風乃音や紅葉乃うゑ　紅葉へ

五行の四乃ゆゑ中　左京極摂政

ひとゝゝ乃ゆゑ

標中　三行分上

寛喜元年　出入角四房門

西園寺入道前太政大臣

うゑの乃めにてさめるさゝのゆゑ乃人

円

うゑとの乃ゆゑの独ゆゑ

後二條家隆卿

円

かすみ　はる

霞乃ゆゑ乃春乃雲　ゆき　わか

二夜百首四乃中　左京極摂政

603

花のさかりのむかしをかけそうつ
もののあはれをあつまりとたつねてのあうかうたに九連の宮
寛治二年百首歌四条後宮
うれはしきあまのたくひうつ[百歌]共をうのいけのなみしのうけ
郭公
ほとたつれはなほうしなきて月すむころの山の月
かつらの宮
洞院摂政家百首イ　後二条関白
つくしよりの松浦をふきさしけのあはうらふのさかうし
四条月
ひさしにあくるあうるの月のあはうのあはうの
はれなる入会関白

とあはりあはるよのあはうにはつ月さえて夕へのあはうにはつの尾のうち
一三うとをのうへにおきて秋のあはれ
毛
後京極摂政
十首百首歌
中納言定家
ふるさとやあはうの秋をとうへのあはうのあはれ
ほのかにあはれ
ほのかにあはれ
ほのかに

604

伊勢三位

うゝとうやはたらのまへよりとりてあるものをさ

百首歌中　拾遺抄

きやうさ　藤原和尚

きやうさ　藤原敦忠

ひとつとあはれなるつけ　秋の夜の月の

これ　円　なんとかくとしてのしるしのあと

右拾遺

秋ヒニ

ものへとれいあつ　古　きみをのうらふさかつめぬ　恋　代をへてかな

十郎百首　拾遺抄

もしき　たま

百敷やもりのうてをよてる月のひかりとそてる社の　みや　人

円　二年百首

後二位藤原為家

ふるの社の月

正治二年伊勢方会歌　正三位家隆

ふるの　いけ　清き　ひかりとそへてやとる月影

宮内卿

ふるの社の月

円

ふるの社の　吃　哩字のうへにそ　に　ふる　ける　円

円

ふるてまつ　衣　由　めるのみさの　軒　下　に　ふる　ける

文永五年内裏歌合　宮内卿

百敷　ふるやふるれひさしきのちのみちはいきしにしき

百首歌　拾遺抄

藤原雅経

海行のうらめしさのみそとりあつめてはるかにうつるかなしさ

はるかまわるいにしへのうらやましさとそてはしをもあはせのうらみ

仙家

三行分上

永久四年百首歌

仲実卿

はるかにてはるかにうつるかなしさ

俊頼朝臣

地乃むもしたけきさかりたつれてはるかにてはるかにうつるかなしさ

漢故事和歌集

たちぬうらめ哀の神しかれもとかへさしもうらめしさ

源兼昌

のりてはるかにつるの羽風はもくもくはるかにはるかにうつるかなしさ

永久元年四月裏

第中納言家歌

紀伊元年九月法華一会仏家勝歌

亀山院御製

きはれたるうらやましさとそとりすしややうのうらうらかさ

入道前太政大臣

うらやましんとそとりのうらやましさのうらやましさ

おなじ御歌

はるかにてはるかにうつるかなしさ

後三位頼輔

はるかにはるかにうつるかなしさ

はるかにはるかにいにしへのあとうらやましさのうらやましさ

信濃守令徳家桜興　従二位行権

[illegible]

洗門[illegible]

[illegible]

[illegible]

三行令ん

都

郡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠治三年[illegible]百首　後二條[illegible]

[illegible]

法[illegible]海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月 たのしや

ありぬとて たのの[みやこ]ぶ[さと]山里 [ま]ちすてて 衣うつ

ようよ人 不知

月

五 いふ[ま]へのへ[ま]ぶ[ま]やさ[ま]ぶの ゆ[ま]に 散ぬれいうすき

額田王

月 たのしやと

月 秋の野の 尾 ゆ[ま]に[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ

菊原張成

続千 秋下 石間 秋ぶ中

ちぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]ぶ[ま]

五十五 あ代ゝ〻 円 奈良の帝の御時

なゝの歌とて作歌

五十六 たちゝりたる花とぬぬ

雜六

中宗実朝 師光朝臣 続後拾

五代 いか〻 続後拾雜

神無月の比なゝの歌

乃世の霜枝の月代ゝ

源実朝

五十七 ひなゝ

ちゝゝゝ

三行合どん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

万十 陸奥すらをのいくしらやまのおもかげにつゝのさゝらにゆめさめしかな　　坂上郎女

万十一 おもかげのあとゆかあれとあはさりしうしとも　　人丸

万十二 うしとをもふくさのかけにうつろふのみりしはなれわかん　　島

万十三 大さゝのはつゝ里よりはるかにおきて　　天武天皇御製

万十四 おほはらのはつゝ里にはもゝしきのいのち

雜

万十五 みそらゆくはるかゝさしやまやはつゝのさとやまさらん　　第中納言道房公

遠忌七年彼岸にあたる首尾

拾遺抄雜上

この山にすゝきのうへをふきわたるあきかぜ　　流

遠保四年紀伊百首　　第中納言定家

はつゝ里の三位山ゝとはるかなる　　源

百首奇合　　家長卿

ふるさとのはつゝのしたはのもみちはは　　葉

永久四年百首　　源兼昌

X613

[illegible]

仲実卿記

[illegible]

仁和寺法親王家[illegible]首里河名

[illegible]中納言宣家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文集百首中より抜萃不殺閑

光俊朝臣

[illegible]のふるの中山月かたぶくまでかせそなく

建長七年歌合百首閑紅葉

[illegible]

[illegible]

貞應三年百首

[illegible]

即々内裏御

[illegible]

[illegible]

[illegible]

615

百首歌

[illegible]

光明峯寺入道摂政家百首歌合

[illegible]

おもひつる事すゑとをくあらはれて　檜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

616

玉葉五

[illegible]

[illegible]

一百四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

619

音 月

玉雜三 月

月

月

月

文集百首国歌百首

仮名序

月

文集百首国歌百首

仮名序

月

曉嵐松間斜陽見寒浪間水流水無

前中納言定家卿

苔むすいそのかみ山もとゝ問ふ人にたゞうつゝやありてうき世

百首歌中

山ふかき岩屋の月はあけやらでこのしたかげに秋風ぞふく

文治百首歌の合 形式二のいそ屋

皇太后宮大夫俊成卿

ひとすぢに野べの岩屋をたのみあるこゝろあるべしとは思へど

遠久七年百八十首歌

前中納言定家卿

ふるさとの秋の月はいかばかりこゝろ澄まるゝ岩屋なるらん

大堂御堂のいそやの神のいそやの前中納言定家卿

文治三年十首歌

前中納言定家卿

ありまやま吉野の山の岩屋にて秋の月をもいとはざりけり

俊成卿

家集山家八首

吉野の山ゆくの岩屋にて

後九条内大臣

百首歌中

こゝろ澄まるゝ秋の月のかげ

法二位家歌合

吉野の山の岩屋にて

後九条内大臣

こゝろ澄まるゝ秋の月のかげ

文治三年のいそや

万六一
わかれをしまの浦の浜風の
花月百首　ふるのいそや
なみ中納言家歌
ひかり浦の浜風の若ちとせ
家集寛平中宮
奥のうらやあそういそやのうらかぜ
三百六十首中　ふるのいそや
河内やうちたの浜風けふもまたとまるとは
新古今　ふるのいそや
万三
ふるのいそや
紀伊
同　ふるのいそや
紀伊

万三
ふるさとすぎにしあのうらうつもれる
紀伊三徳寛平　若子　見
同
浜風に
紀伊
ふるのいそや
紀伊
新古今
紀のくにやふるのいそやとさすらへ
寛治二年百首
ふるのいそ
紀ノ国ノ浜ノ
家集
ふるの
家集
ふるの
家集
ふるの

622
1041—1056

新六五

同所にすむ
かゝる人の歌書きつゝ
百首の中に

光俊朝臣

たそかれの
こゝろ
すまゝ

院の御歌
月の
なかめ
なつかし

堂にまゐりの
月のもとに
なつかし

洞院摂政家百首
家

中務卿親王歌
中務卿親王
月をさそ
すまゝ

まゐりのもとの
月
月に
月

摂政正二位

まゐりのもとの
月
月に
月

家集

ひとすむ家にひとりのこれる人の
ひとすむ
ひとて

大江千里

盧

三行分トル

百首の中に

藤原為家朝臣

為家
為家

かゝる
かゝる

かゝる人の
かゝる

かゝる
かゝる

かゝる

かゝる

寄の原やさとをとこのねとみてさうつかたすきかな　源仲正

家集山家まきの戸

山ろのいりいりやのぬけめもりもりまきの戸かな　よこくらだ

新月百

たくちのさと別をとはてまとはとやまのうらはやくもかんとも

嘉禄二年住吉社奇合　指宿河辺

ひかりかさしたるのひかれのむろ河辺　藤法師

ふるそ市

ひかりをてやとかるつのはしらひとまのみてもつれ　國々百家

寛治二年八月廿五日

住吉歌合

端

ひけつくる音のいりのひかりまつくもとまつくも月夏のころ　北

建久八年百首奇合　法二位家歌

教

山ろのいりのおろしたかたてやみこうらうん

四季田家月　四条

庵

まつくる田のいをすすらいとやすみ月よりまつ行幾代

家しあらし

河院御百首　きたのいり

荒山

たかる田のいをる入る月白

秋されいまつれりまもあれ山ときちらしのこの露に

寛治二年百首歌　常盤井　入る月の海岸

小嶺うくひすの声のたちやの枕風に秋の夜の月の影ぞ冴えまさる

家集女房のもとにはよりの山ふかきのりうらんの

山田法師

続後拾遺雑上

よりの心りきちのいりいそらんの嵐おろそとも庵しさ

山陰入道前太政大臣百首山家風

松のつゆ

あらしの

哀々山家鶯

なりのやれ山いおりの松のいやむとへいをやもれぬ

桜色の花院を尋ねおりて新後拾遺山家の歌

来のいろり

法二位家隆卿

うやこ人松のいろりの煙のむあるさへ消えてなのこもれつ

家集拾遺中より

月

雪

をゆきてみくしの家のもちろ山人のいろりをたまりを

雪の法師

十首百首 松のいろり

いろり山松のいろりよまとあけてあらてまつ音をなの

正治二年百首 みのの山

少将法

ましたてやすむとりんまし吉野山このよいろりをもすい

建久四年 嵐さのいろり

白雲院大納言

吉野山このあらしのいろりに家もたまた

鄭ふ和

こもり方

たらちねとのあ代さるこもりやこの山のいろりまとふ

初瀬

庵

625

[illegible]院入道[illegible]歌五十首

大納言有家

をぐるまのみやこのゐなかさとうちんさらでは[illegible]

花月百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六二

[illegible]

遠治三年[illegible]百首

[illegible]

[illegible]

文治六年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

悠紀方面まつり所 にける歌

悠紀方面まつり所 にける歌 備中国

備中国の家ども

備中国の家ども

備中国の家ども

627

五十六
みつくにさすやうのかうやのまつ　河辺に造
もろの五千首の合　あのまつや　陸奥国
ものの別　あのまつやも　新しられて　うたにやる　月かな
五百番の合
大納言家
源中納言　ひとつよ　新しられてあのまつやよ　名とたに　来
藤原通方卿　家　あやま　けう
ふるのあやまりやうたけ　俊頼朝臣
文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成
難波　なにはめかあのまつやの　ものすたれ　一夜　底
正治二年千百首　ものの　ものや　同

五十七
新勅撰　ひ　ものうらのまつ　ものの
永万二年五月御賀合
清輔朝臣
あつまや　あつまやの　ものの　ものや　また　我

百首哥　　大宰帥為経卿

さゝ波やあたらさゝなみのうひさゝ（庵）　ひとへなる春の白雪

　　北院百首哥の中　　参議為相卿

すゑ（端）ふくかぜのひら（方）にまかせてひら〳〵と春のゆきこそうへ

　　嘉元年百首哥　　北院入道二品親王

さゝ（過）ぬ花ゆゑ（け）ゆきとしたがへしひるのさゝやまつ（外）ゆ（幾代）こもりぬ

　　建保四年百首哥　　前参議

ちるとてはいと（問）ふ人もかはるさゝ（カラ）ぬ（ま）ひるのさゝやまつ（鄙）ゆ

　　百首哥　　為氏卿

ゆきもとけぬ（た）ゆるこゝろあるこゝろ

　　嘉元百首哥　　北院入道二品親王

ゆきもとけぬ（た）ゆるこゝろあるこゝろ

　　信実朝臣

あらしやのいろはにこゝろさそふ（ま）ゆ月の新（かな）

　　久安百首哥　　中納言資仲卿

月ゆ（ら）こそ山ぢのすゑのしるけれ（あけ）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）

　　大納言公実

みの（沈）ねはいとゞのすゑ（え）にてひ（擂）ゝ（ま）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）

　　百首哥中　　きさのよすが

あさ（け）ぬ（今朝）ゆ（ま）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）ゆ（ま）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）

　　日　　さのゝ

ぬ（カ）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）ゆ（ま）ぬ（ま）ゆ（か）ぬ（な）

　　嘉元百首哥　　為氏卿

ゆきもとけぬ（た）ゆるこゝろあるこゝろ

629

九月百貫目

とよひられしくのものやとさめてとりかへの月ゝ紙

百貫目

くるくるなる新市の杉代ありてすくのものやとせ過

家業物中

ふくの山物代をめいたりすくのものやとすしうん

合五百貫目

銀二百貫目

かくこの周のすくのものやとの物言めたりしすかるのうりかき

光長寺院入屋敷新家敷ゆきうる新屋月

志のイ

すくのまうや

後二位家隆卿

家業物中

荒

月

家業あるこの中ゝうりかへ

尾屋

かりうりのものくくくくさうひあさいあるものうりも

三イ

建保二年四月廿五日家屋百貫目水ゝ

後のこまや

筆中納言定家卿

名の日のこうくれのくの家うれくるものうりかへ

家業あるくの物言　西行法人

とまの屋ゝ源氏ゝうくあてあきうすくうきれ

住憂

神力不思議一切秘要之義

しは

くくうの山ゝくくくはは屋のうちまてくくはかさめとうやあ

潮

第参拾新隆々

百首之内　嵐山

家隆

うきなかとつつみのほとにすむ鷺の一くちうるにすみ

家集水源山霧

西行法師

そはの人のまきの式りやのあふ

百首歌合

摂家将院実明々

紀

きの国やあの浦のあしのこしらの風よ

十首百首内

摂家摂政

夕ぐれにたに流るの少鶴あるいわてくあはのあしをてこ

百首之内

実家

まつ

まつ月の影も澄んなてくつなくのてのうやに弱そうて

宿

嵐々山家

道生

かりするなのあの屋のうみてぬるうちに月ろ落ぬ

実家

かいとちのそあふのあ乃くり松ゆめにすてそ人ようる

ようこ人屋

彩雲和

至

ひさかたのそふ乃うやよゆ雨ふりとこさ人ぬ月よ

三百六十首内

ちのや

恋

凡夏

秋後拾夏

あのそたにうそれて

隔

すあうそ

難波女

ちにいめのこ風いあそすし

寛治二年百首

永縁門左兵

[illegible]

法橋百[illegible]

源仲正

[illegible]

屋形

家集懐中

同

[illegible]

[illegible]

第廿二年位[illegible]

[illegible]

[illegible]

第廿二年百首

民部卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

632

いとゝみせんとのつのくまにうゑむしのらのこゑを
　　指徐西行朝臣
　　月
あきはぎのしたもとすゝきかるかやの　敷
　　親
　　夢ゆゑ人
　　明
　　哀
　　西行法師
　　家集
　　陸奥国にまかりける時
　　はる
　　さくら
　　まつに
　　月
　　仲実朝臣
　　なる

文永百首

文永百首

鴨

悲

色

しろたへ

　　常中納言家歌合

　　山家

　　三行分カトル

延喜二年四月廿四日

　　宿

　　後拾

　　大納言経信卿

　　後拾遺雑四

　　ね

　　宿

　　後拾

　　大納言経信卿

　　石山詣侍

　　文永百首

　　常中納言家歌合

X 633

光

その夜月はすこうくのあくるのこりる山ふかれ

新古今中

花中納言俊平卿

石の橋松乃ゝゝゝと絶てをゝゝゝ

拾遺集雜上

法皇の御方に

きくとなくもとうとくとくるさとの月をみるかなれと

ひと　やま　ふる　みち

四集　山家

月をとうるかの山の梢をこるれいほりよりてとう月をまつ哉　同

けい　つき

拾遺抄雜

百首四首

玉葉雜三

この

山里は雲の八重たつ思ふるわやありとたつしるの家に

ひと　そこ

家に合る山家歌　同

続

まとしてのとさしのうまりもちあるところ家に

おく

合る山家　同

百首に合る山家　同

やまに

家のあれと思ふてうとしたる

拾遺抄雜

山家十首そうの中　同

あと　したみち

ふるさとの跡をしたふ心のいなる家のもとに

玉葉雜三　同

あと　したみち　風そふく

ふるけやわいのうけしたてうのうへに松そうそふく

同　同　同

ふる　ふく

うりそのうらに松そうそふくのうへにあるこころ

ふる　ふく

建長三年十首会に就判山家松風

ふる

ふる

ふる

635

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

636

あと　みち　後　しら　ちイ

[illegible]たりきて雲とりけつる屋のねぶ

[illegible]家の家の氏　法二位[illegible]

[illegible]の[illegible]ありけれ　かく　[illegible]ありしかれ　のき　くも　そら

寛元元年[illegible]入内屏風[illegible]

西園寺入道[illegible]

[illegible]ぬとて貳のくるまさいそくめりそこのうえ　ちくみね　[illegible]のこさと

正治二年百首　[illegible]

あこ　[illegible]へとりあとしつくしむ　[illegible]たるけ　いる　[illegible]

文治六年[illegible]百首

皇太后宮大夫俊成

[illegible]　はかり　[illegible]　あとたえ　[illegible]

洞院摂政家百首　前中納言定家

ちぢ　[illegible]　たち　[illegible]　やま

建久七年百首　八首　家

ひと　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　椎　[illegible]　石　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

文治三年閑居百首　[illegible]

[illegible]　お　[illegible]　[illegible]　[illegible]　垣かな　[illegible]

正治二年百首

[illegible]　おと　[illegible]　[illegible]　[illegible]　ね　[illegible]

遠之七年百廿八首　円

わすれてあくるのきけしの里のうちのけしのひとりなくこと

貞享三年別途百首　衛峯暁月出空中

郭公の郷

夜の居のあくるいつの月ぞとなる花のしらるるこころかな

ながめこそ

見つるかなとすとをいたるとそとなるあくるなるひとすまし

文治四年毎日一首中　円

なかめやるこころのあくるとのあくるやまとのあくるかな

遠年三年毎日一首中　円

この里のまつのあくるのいけみつのいけみつのあくるこころ月のあくるこころ

小倉山しくもちりあるまつのあくるけのあくるなるこころにはひとなるこころ

貞享三年百首　円

くれゆけいそのみのあくるに雲のあくるといたるこころかな

文永六年毎日一首中　円

いくこころもあくるあくるこころのあくるまつのあくるけのあくるこころ

陸奥に井て秋をゆるみぬるしかのあくるやまのあくるつまのあくるこころ

文永六年

見れとなおあくるのあくるのあくるみつのあくるいしのあくるこころ

ひとつのあくるこころのあくるけのあくるこころのあくるこころ

家集 山家苔

法眼寂蓮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二字ナト

5

ゝ　ゝ　ゝ　

640

弘長元年十月廿日　　為藤并入道左大臣

うつしとりしやの形のまさしきをうつしとりたる

伝宗為氏

円　　門守

かりそめにそのかたちをうつしとりたるはいかなる

僧都為家卿家会面影　　幾代

いまはしやかの面影をうつしとりたるはいかなる

百首歌

為道法師

かりつるく田中のあぜに日はくれて

なきさるひくはたれかとはん

為氏百首歌

為家卿

文永元年七月廿日　　為氏百首歌

為家卿

かすみたつ田のあぜの柳の一もとは

花咲ぬるかとのみ見ゆる

円

為氏

建長四年七月廿日　　為氏百首歌

為家卿

すゝしさすゝむ秋の夕ぐれ

為氏卿

正嘉二年百首

為家卿

山里のまさきの葛のうらかぜに

おのつからなる秋のいとぐち

為氏卿

為家卿

為氏卿

641

夫木和歌抄巻第三十 終

種

[illegible]

田家のうた　中納言国信卿

[illegible]

西行法師

[illegible]

建治三年内裏百首　同前

[illegible]

[illegible]

洞院摂政家百首

[illegible]

後二条関白